

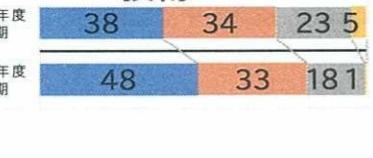
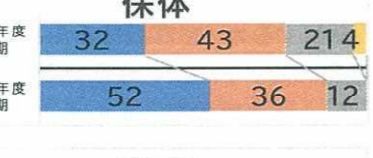
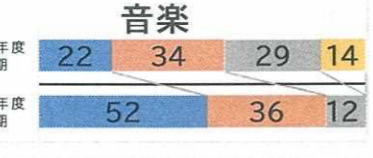
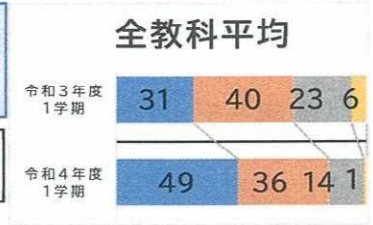
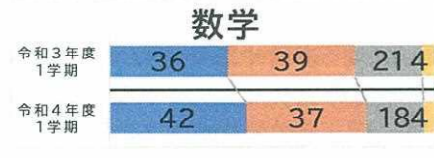
## 6. 本校生徒の現状

### (1) 生徒授業評価アンケート結果の変容

※アンケート結果は現2年生及び3年生の変容となります。

＜アンケート質問項目＞  
「授業の中で、自分の考えを分かりやすく説明すること(教科の特性)ができていますか。」

■ そう思う ■ ややそう思う ■ あまり思わない ■ 思わない



＜アンケート結果の変容から分かること＞

全教科平均の変容から分かるように、肯定的な評価の割合が71%⇒85%と大きく向上する結果となっている。また、教科ごとにみても肯定的な評価の割合が高くなっており、「説明する力」に関する、生徒の自己評価が高まっていることが明らかとなった。これまでの取組により、各教科の特性を踏まえた「説明する力」が身に付き、達成感や充実感が得られた結果だと考えられる。

### (2) 各種学力テストの結果分析から見える課題

①[令和4年度 大分県学力定着状況調査(2年生)の結果及び分析]  
国語、数学、英語で県の平均正答率を1ポイント以上上回っている。社会、理科では県の平均正答率を下回っているものの、佐伯市学力定着状況調査(1年次12月実施)と比べて、市平均正答率との差は縮まってきている。課題としては、必要な情報を取り出し解答する問題の正答率が低いことが挙げられる。

②[令和4年度 全国学力・学習状況調査(3年生)の結果及び分析]  
数学と理科で全国及び県の平均正答率を1ポイント以上上回っている。国語では県の平均正答率を下回っているが、昨年度よりも無解答率が低くなっている。課題としては、国語科における「場面の展開や登場人物の心情の変化などについて、描写を基に捉える」項目等の正答率が低いことが挙げられる。

## 7. 成果と課題

【成果を○、課題を●で表している】

①校内研修における教職員間の「説明する力」に関する共通理解  
○教職員間での共通理解を図った上で、教師と生徒のゴールイメージを共有したことにより、自分の考えを分かりやすく相手に伝えようとする生徒が増えた。  
○「聞き方のコツ」及び「思考スキル(Qワード)」の学級掲示を通して、聞く側の意識も変化し、分かりやすい説明を引き出すことにつながった。また、説明することに苦手意識を持つ生徒の支援にも結びついている。  
●説明を得意とする生徒と苦手とする生徒の学ぶ意欲に差が生じてしまう現状がある。苦手な生徒に対するさらなる手立てを検討する必要がある。  
●定期人事異動により、教職員の多くが毎年入れ替わっていく中で、前年度までの実績を踏まえた取組を継続することが難しい。

②定期的な教科部会の実施  
○教科経営の基盤となる教科部会を実施し、「説明する力」についての情報交換や自己の授業の振り返りを定期的に行なってきたことで、個々の指導力が向上し、生徒の学力向上に結びついた。  
○校内におけるOJTを通して、若手教員の人材育成につながっている。  
●教職員間で授業時数に差があるため、定期的な部会開催が難しい教科がある。



③互見授業の実施  
○互いの授業を参観し、その授業における「説明する力」の育成に関する工夫点や有効な手立てを、自分の授業に取り入れることができ、授業改善につながった。  
○ロイロノートにおける思考ツールの活用等、「説明する力」の育成に焦点を当てた事後研究会を実施できたことで、教職員一人一人の深い学びにつながった。  
●授業改善に向けた互見授業の機会を十分に確保する必要がある。



④生徒による授業評価アンケートの実施・分析  
○生徒による授業評価を活用し、「説明する力」を中心とした授業改善を短期PDCAサイクルで行い、生徒と共に創る授業づくりを推進した。その結果、学びに向かう学習集団としての自覚も高まった。  
●結果分析から検証・改善までの適切なプロセスを確立していかなければならない。



## 令和4年度

佐伯市学力向上実践研究事業に係る  
研究指定 テーマ『説明する力』  
第2年次

# 研究報告

**学校教育目標**  
夢の実現に向けて、仲間とともに  
よりよく生きる生徒の育成

**研究主題**  
「論理的にわかりやすく説明する力」  
を育成するための工夫

令和4年11月17日(木)

## 佐伯市立佐伯城南中学校



〒876-0834  
大分県佐伯市城南町17-1  
TEL:0972-23-0708  
FAX:0972-23-0716

# 1. 学校教育目標と研究主題のつながり

近年、佐伯市の小・中学生の課題として「説明する力」や「表現する力」が低迷していることが挙げられる。本校も例外ではなく、題意を的確につかみ、必要な情報を取り出して、論理的に考えて説明する活動において課題がみられる。この現状を改善するために、佐伯市教育委員会より「説明する力」のテーマ指定を受け、本校教職員が生徒と共に創り上げる授業を目指し、授業改善を行ってきた。

生徒一人一人の「説明する力」を育成することが、確かな学力の育成につながり、学校教育目標である「夢の実現に向けて、仲間とともによりよく生きる生徒の育成」につながるはずである。本年度は、「説明する力」のテーマ指定研究の2年次である。昨年度1年間の研究により、説明する力を高めるためには「聞く力」の育成が欠かせないことが明らかとなった。そこで本年度は聞く力の育成方法も考えながら研究を進めている。

## 研究主題「論理的にわかりやすく説明する力」を育成するための工夫

### <主題設定の理由>

- (1) 豊かな社会生活を営むために
  - ・多種多様に変貌する現代社会において、個人間のコミュニケーション能力が問われている。相手の声に耳を傾けることとともに、自分の思いを的確に相手に伝えるということが大事である。中学校3年間で、その基盤を形成する必要がある。
- (2) 確かな学力を身に付けるために
  - ・「説明する力」は、理解力と表現力が統合されたものとしてとらえることができる。つまり、「論理的にわかりやすく説明する」ことができるということは、十分な理解がなされ、表現技能も身に付いているということである。逆を言えば、「説明する」ことを通して、理解を深めることもできる。

各教科等における言語活動を通して、生徒の「説明する力」の育成を目指す。

### <本年度授業の重点>

- ① 一時間のねらいを明確にして授業に臨む
- ② 各教科等におけるその学習の「ものの見方や考え方」を示し、それを働かせる場面を設定し、生徒の考えをを広げ、深めさせる
  - ※「ものの見方や考え方」…学習活動における「考える視点や観点」のこと。自分の考えの根拠となる部分が何かを明確にするために持つべき視点。
- ③ 生徒が説明する場面を設定し、必要に応じて説明のモデルを提示する
- ④ 説明する力を支える聞く力を育成するための手立てを講じ、実践を重ねる

# 2. 目指す生徒の姿

「説明」と一口に言っても、「感想」・「意見」・「紹介」など、その表現様式は様々である。「何をどのように」等といったその場に応じた表現を考えなければならない。佐伯城南中学校における「目指す生徒の姿」を各学年で設定した。また、「説明する」際に、特に大事になるものが、「思考力」である。以下に表記したものを中心に考えさせ、表現を組み立てていくことが必要となる。

	第1学年	第2学年	第3学年
目指す生徒の姿	◆目的や場面、相手に応じて、話題や話の方向をとらえて、構成や表現方法を工夫して、わかりやすく話すことができる生徒	◆目的や場面、相手に応じて、自分と他の考えを対比しながら、構成や表現方法を工夫して、論理的に話すことができる生徒	◆課題解決に向けて、目的や場面に応じて、適切な語句を用い、資料等を活用したりして説得力をもって話すことができる生徒
◆表現	◇課題解決に向けて、互いの考えを整理し、再考するために、自分の考えをすすんで生かそうとする生徒	◇課題を解決したり、互いの考えを広げたりするために、自分の考えをすすんで生かそうとする生徒	◇課題を解決したり、互いの考えを深めたりするために、自分の考えをすすんで生かそうとする生徒
◆態度	順序立てる理由を付加する 例示する比較する 具体化する抽象化する	分類する関係付ける 筋道立てる類推する 多面的・多角的にとらえる	帰納的に考える 類推する象徴する 演繹的に考える
必要な思考力			

# 3. 研究内容及び研究組織

## (1) 主な研究内容

- ① 校内研修における教職員間の「説明する力」に関する共通理解
  - ・城南中生の「説明する力」の育成を目指して
  - ・昨年度の研究の成果と課題の共通認識
  - ・「聞く力の育成」に関わる学級掲示の考案
- ② 定期的な教科部会の実施
  - ・日課表に位置づけた月2回の教科部会の実施
  - ・「説明する力」の育成に向けた指導内容の作成
  - ・授業における「説明する力」の育成場面の設定
  - ・「説明モデル」の作成
- ③ 互見授業の実施
  - ・学期に1人1回の教科内互見授業の実施
  - ・各学期互見授業週間及び全体互見授業日の設定
  - ・指導略案の工夫  
(「ものの見方・考え方」を働かせる場面、「説明する力」の育成場面の設定)
- ④ 生徒による授業評価アンケートの実施・分析
  - ・授業評価アンケートの分析結果を基にした、次学期の授業改善テーマ設定
  - ・学期2回、授業改善テーマに関する振り返りの実施

## (2) 研究組織



# 4. 研究経過

	令和3年度	令和4年度
1 学期	<ul style="list-style-type: none"> <li>・日課表に位置づけた教科部会の実施</li> <li>・1学期授業改善テーマの設定</li> <li>・1学期互見授業週間 6/14(月)～6/18(金)</li> <li>・全体互見授業日 6/16(水)</li> <li>・4名の先生の研究授業と事後研の実施</li> <li>・教科内互見授業の実施</li> <li>・生徒による授業評価アンケート実施・集計</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・昨年度の取り組みの共通理解</li> <li>・日課表に位置づけた教科部会の実施</li> <li>・1学期授業改善テーマの設定</li> <li>・1学期互見授業週間 6/13(月)～6/17(金)</li> <li>・全体互見授業日 6/15(水)</li> <li>・4名の先生の研究授業と事後研の実施</li> <li>・教科内互見授業の実施</li> <li>・生徒による授業評価アンケート実施・集計</li> <li>・生徒による授業の自己評価及び授業改善テーマの達成度の振り返りの実施(5月・7月)</li> </ul>
休 夏 業 季	<ul style="list-style-type: none"> <li>・授業評価アンケートの分析及び2学期の授業改善テーマの設定</li> <li>・「説明する力」の育成に向けた指導内容づくり</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・授業評価アンケートの分析及び2学期の授業改善テーマの設定</li> <li>・1学期の取り組みの振り返り(教職員)</li> </ul>
2 学期	<ul style="list-style-type: none"> <li>・設定した授業改善テーマを生徒に周知</li> <li>・生徒による授業の自己評価及び授業改善テーマの達成度の振り返りの実施(10月・12月)</li> <li>・公開研に向けた取り組み(公開研※11/11(木))</li> <li>・互見授業週間11/8(月)～12(金)</li> <li>・教科内互見授業の設定</li> <li>・生徒による授業評価アンケート実施・集計</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・設定した授業改善テーマを生徒に周知</li> <li>・説明モデルの作成</li> <li>・聞き方のコツ及び思考スキル(Qワード)の作成</li> <li>・生徒による授業の自己評価及び授業改善テーマの達成度の振り返りの実施(10月・12月)</li> <li>・公開研に向けた取り組み(公開研※11/17(木))</li> <li>・互見授業週間11/14(月)～18(金)</li> <li>・教科内互見授業の設定</li> <li>・生徒による授業評価アンケート実施・集計</li> </ul>
休 冬 業 季	<ul style="list-style-type: none"> <li>・授業評価アンケートの分析及び3学期の授業改善テーマの設定</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・授業評価アンケートの分析及び3学期の授業改善テーマの設定</li> </ul>
3 学期	<ul style="list-style-type: none"> <li>・設定した授業改善テーマを生徒に周知</li> <li>・生徒による授業の自己評価及び授業改善テーマの達成度の振り返りの実施(2月)</li> <li>・教科内互見授業の設定</li> <li>・互見授業週間2/7(月)～10(木)</li> <li>・全体互見授業日2/9(水)</li> <li>(※感染症拡大防止のため中止)</li> <li>・生徒による授業評価アンケート実施・集計</li> <li>・本年度の研究のまとめ(研究紀要の作成)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・設定した授業改善テーマを生徒に周知</li> <li>・生徒による授業の自己評価及び授業改善テーマの達成度の振り返りの実施</li> <li>・教科内互見授業の設定</li> <li>・互見授業週間2/6(月)～10(金)</li> <li>・全体互見授業日2/8(水)</li> <li>・生徒による授業評価アンケート実施・集計</li> <li>・本年度の研究のまとめ(研究紀要の作成)</li> </ul>

# 5. 「説明する力」の育成に向けた具体的な取組

## (1) 各教科における指導内容

各教科の特性を踏まえ、学習指導要領の記述を基に「各教科における説明する力」の指導内容を一覧にまとめた。学年ごとに、具体的な指導内容を設定することで、育成すべき「説明する力」を明確にすることができた。

## (2) 「説明モデル」の作成と提示

「説明モデル」を作成し、班活動の際の補助的材料として活用できるように各教室に配置した。その中に、各教科で説明に必要な用語例等を示し、教科の特性を意識できるような工夫を盛り込んでいる。これにより、分かりやすい説明の基準ができたことで、班での交流活動をより深く、より活発に行うことができた。

## (3) 適切な評価の在り方

分かりやすく説明できているかを評価することは容易ではない。話すことだけでなく、文章で表したり、図やグラフを用いて説明するなど、多岐にわたる。ワークシートでの記述内容や生徒の振り返り・感想から判断したり、英語ではスピーキングテストを実施したりする等、各教科の実践を交流し、評価の在り方についての理解を深めた。

## (4) 聞く力の育成に関する取組

「説明する力」を育成するためには、聞く側の力(聞く姿勢や説明を促すための発問の質)を向上させる必要があることが、昨年度の研究で明らかとなった。そこで、「聞き方のコツ」及び「思考スキル(Qワード)」を学級掲示することで、聞く側の意識の変容を図った。

### ① 「聞き方のコツ」の作成

「聞き方のコツ」を作成し、各教室に掲示している。説明する側が説明しやすい雰囲気となるよう、授業の中で意識付けを図った。

<聞き方のコツ>

- ① 話し手の方を向いて
- ② 先入観を持たずに
- ③ 笑顔で、うなずきながら
- ④ 話し手の伝えたいことは何かを考えながら
- ⑤ 自分との共通点や相違点を考えながら

- ⑥ 聞き終わったら、話し手の思いに答えよう  
「分かりました。」「同じです。」「なるほど。」「その考えいいね。」「質問があります。」など

### ② 「思考スキル(Qワード)」の作成

説明する側が説明に困ったときの支援や、良い説明を引き出す為の手段として「思考スキル(Qワード)」を作成し、各教室に掲示している。レベルを設定することで学年に応じた思考力の育成を狙っている。

思考スキル<Qワード>

聞き手側が積極的に質問し、交流活動を活性化させよう

<レベル1> 理解を深めるためのQワード	<レベル2> 考えを広げるためのQワード	<レベル3> 考えを深めるためのQワード
<p>どうして? 理由を探る</p> <p>例「どうして(なぜ)、そう考えましたか?」「そう考えた理由は何ですか?」</p>	<p>比較すると? ちがいはどこか探る</p> <p>例「〇〇と□□を比較すると、どんなことがわかりますか?」</p>	<p>もし〜だったら? 仮説をたてて推論する</p> <p>例「もし〇〇だったら、どうなりますか?」</p>
<p>例えば? 具体例を挙げる</p> <p>例「例えばどんなことですか?」「具体例を教えてください。」</p>	<p>他の考えは? いろんな考えを出してみる</p> <p>例「他の考えはありませんか?」</p>	<p>共通点は? 共通点から結論を導き出す</p> <p>例「考えの根拠となる共通点は何ですか?」「〇〇という共通点から、どんなことが言えますか?」</p>
	<p>立場を変えたら? 誰かの気持ちになって考える</p> <p>例「ちがう立場で考えたらどうなりますか?」「視点を〇〇に変えてみるとどうですか?」</p>	<p>関連性は? 関連付けてとらえる</p> <p>例「〇と△の関連性がありますか?」「〇と△から、どんなことが言えますか?」</p>